

令和3年度綾部市創生有識者会議 議事概要

日 時：令和3年11月19日（金）13時30分～16時05分

場 所：綾部市役所本庁舎3階第一委員会室

出席委員：伊藤丈二、井本一寛、入澤久美子、四方憲生、滋野浩毅、高倉正明、田中重春、
中田康之、中村俊治、真下加奈子、三宅肇、村上静代、山崎栄市、山中央香、
山崎清吾

欠席委員：一瀬健太、白波瀬聡美、林多嘉子、前本和輝

綾 部 市：村上教育長、岩本市長公室長、上原市民環境部長、大石福祉保健部長、
大島農林商工部長、朝子定住交流部長、四方建設部長、上原消防長、
四方上下水道部長、高橋議会事務局長、大槻教育部長

事 務 局：企画総務部 吉田部長

企画政策課 村上課長、梅原担当長、中村会計年度任用職員

傍 聴：1名

配布資料：・次第

・委員名簿

【資料1】綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況（令和2年度評価）

【資料2】綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況・効果検証

【資料3】綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標（KPI）
実績評価一覧

【資料4】令和2年綾部市転入転出状況

【資料5】地方創生に係る国の交付金（地域再生計画）の進捗状況・効果検証

【資料6】地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金
重要業績評価指標（KPI）実績評価一覧

【資料7】綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略の見直し

1 開会

2 委員紹介

3 座長（山崎副市長）挨拶

4 協議事項

- ・綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証
 - ・地方創生に係る国の交付金（地域再生計画）の進捗状況・効果検証
 - ・綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略の修正
- 資料に関して事務局から一括説明。各委員からの意見は以下の通り。

<意見・質疑応答>

【綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について質疑応答】

委員:(資料1)令和6年に目標値を達成するには、毎年の実績を累積するということか。

KPIの目標数値が、累計なのか単年なのかわからない。

事務局:各KPIによって、単年度、5か年間累計、計画開始時からの累計など数値の設定は異なる。資料3のKPIの名称に、累計及び5か年間累計についてはカッコ書きで記載している。記載がないものは単年度数値で設定している。

委員:KPIの新設住宅戸数について。指標によってはコロナウイルス感染症の影響を受けたようだが、住宅戸数は影響がないように思う。令和6年度の5か年累計目標900戸を単年度に換算しても令和2年度は目標に達していない。伸び悩んだ理由は何があるか。

担当部長:第一期(H26~H30)の5か年累計が874戸で、年平均が160数戸となる。この5か年の間に線引きの見直しがあり、住宅建設が進んだ背景がある。人口が減少する中で、第一期より高い目標を掲げたため目標が高いということもあるが、令和2年度は建設が進まなかった。5か年累計で900戸、年間180の目標に対し116戸で、単年度で見ると64%の達成率にとどまった。

座長:綾部市では現在、工業団地辺りに勤務される方が増えてきて、住宅供給は市の大きな課題。住宅が供給されないと福知山市、舞鶴市に人が流れてしまう。今後住宅には力を入れていく予定。

【地方創生に係る国の交付金(地域再生計画)の進捗状況・効果検証について質疑応答】

座長:駅北複合施設整備事業について、表記をかえているのはなぜか。

事務局:駅北複合施設は、「子育て支援拠点機能」「図書館機能」「地域交流拠点機能」の3つの機能がある。今回、それぞれの機能ごとの趣旨・目的にあった戦略の箇所にとし込んだ。

座長:総合戦略P38の駅北複合施設整備事業は、機能がカッコ書きされていないのはなぜか。

事務局:こちらの駅北複合施設整備事業は、基本戦略2の(3)「住みたくなる」綾部づくりにおける③中心市街地の活性化の推進(P37)に係る事業である。中心市街地の活性化を図るために複合施設を整備するとしているので、こちらでは駅北複合施設の各機能を個別に指しているのではなく、施設全体を指しているため、機能別のカッコ書きは入っていない。

座長:交付金のKPI50%未満のものについての説明をもう一度お願いしたい。

事務局:(資料6-1)観光消費額、観光入込客数及び外国人宿泊客数は、コロナウイルス感染症の影響により観光が落ち込んだことに加えて、京都府の実績に京都市分が積算されていないため、目標値を大きく下回る結果となった。

交流人口地域消費額については、北部7市町の観光に係る観光消費額を指標としているが、こちらも新型コロナウイルス感染症の影響により人の流れが抑制され、目標値を大きく下回った。

京都舞鶴港におけるクルーズ船の寄港数についても、新型コロナウイルス感染症の影響により大型客船の寄港が0回で達成率は0%となった。

座長：いずれも新型コロナウイルス感染症の影響により観光業が伸び悩んだ結果である。これから緊急事態宣言が解除され、いよいよ経済活動を回していこうという時期が来た。現在、市、商工会議所及び観光協会が様々な手立てを考えている。

駅北複合施設については、令和4年度予算で工事費を計上していく予定。北部産業創造センターと繋ぐ回廊を作り、一体化した施設となるよう計画中である。また里山交流センターの再整備についても時期を見て発表する。病児保育を市立病院内に整備し、11月から対応している。このような内容を今回追加記載した。

委員：観光がコロナで落ち込んでいるが、旅行できない中でも産品が買えるシステムやオンラインツアーなど観光に物や情報の移動も含めて検討をすればよいものになると考える。KPIをどのように設定するかは合わせて考える必要がある。定住は伸びているようであるが、移住希望者は潜在的にまだ需要があるのかなど状況を教えてほしい。

担当部長：空き家バンクについては、今年度は23世帯50名近く移住しており、現段階では昨年度の31世帯を上回る見込みである。コロナ禍（現地案内中止時）に50件以上の問い合わせがあり、現在、順次対応中であるため潜在的な需要は伸びている状況である。そのため空き家バンクの登録数を増やすことが今の課題である。オンラインツアーとしては、農家民泊経営者の協力のうえオンラインでの宿泊をするなど新しい取り組みを進めている。KPIに反映する点については、今後検討していく。

座長：空き家バンクでは、持ち主が田畑や山も全部手放したいという思惑がある。しかし買い手は家と小さな畑だけが欲しい考えの方が多く、上手くマッチングしないことも課題である。

委員：2050年カーボンニュートラルの実現に向けて綾部市としても新たな政策があげられているが、ゼロカーボンシティ推進事業の中身や今後の方針など説明をお願いしたい。

担当部長：2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進とは、ゴミの減量化や太陽光パネル設置の補助など総括的な考え方である。ゼロカーボンシティ推進事業では、綾部市としての取組を示したロードマップを作ろうと進めている。再生可能設備導入調査事業は、市内の公共施設に太陽光パネルや蓄電池を設置するため施設の調査を行い、設置の優先順位づけを進めている段階である。

【地方創生・綾部市まちづくりについての意見】

委員：綾部市図書館について、とても期待している。図書館はこれまでボランティアや市民の応援支援のもと成り立っている施設であるため、設計図作成の際には市民の意見を反映させてほしい。

座長：図書館については、検討委員会等で相談のうえ進めている。今後も説明を行いながら進めていきたい。

委員：由良川のお食事処に観光バスが入れるよう道路の整備をしていただきたい。

座長：市だけでは難しい事業であるが、市としても観光促進のためにも整備が必要と考えている。府や国と協議を行っていきたい。

担当部長：大型事業のため厳しい部分もあるが、事業実現に向けて今後も取り組んでいきたい。

委員：豊里地区に施設が出来たことはありがたいことである。地元としてもっとPRしていく必要があると感じる。自治会活動活性化推進事業についてはお世話になっている。今後も防犯カメラや安全灯の設置等を活用し、安心のまちづくりをしていきたい。

座長：市と自治会連合会が一緒になって安心のまちづくりを行っていきたい。

委員：綾部市としては、移住定住促進事業について早い段階から取り組まれており、数も増加している認識である。移住された方はどのような形でお仕事をされているのか。地元の事業所では人手不足の声も聞かれるため、そのような所とマッチングさせることが出来たら良いと考える。

担当部長：移住定住者の就職については、自営や農業、工業団地の企業に就職されるなど様々である。総合窓口で関わる際にはハローワークとの連携や就職サポート等行っている。今後も連携し、情報交換を行っていきたい。現在、空き家バンクを利用する方に限定すると、定職というよりも農家民泊など特色ある仕事をされている方が多い傾向にある。

委員：移住された方がハローワークに来られることは少ないように感じる。コロナの影響と地元に来なくてもネットで調べられるなどといったことから、ハローワークでも把握しづらい状況である。今後、移住定住の相談があった際にはハローワークへの誘導をしていただきたい。

担当部長：市の総合窓口に来られる方は綾部市に移住してから就職口を探す方が多いように感じる。綾部市民になられてからハローワークへ訪れている方も若干数いると考えられる。

委員：基本戦略の出生数については、少子高齢化の中でのなかなか難しい課題であると思うが、子育ての施策だけではなく、結婚・妊娠・出産に関する施策についても KPI の

設定を検討いただきたい。妊婦へのサポート、出産後のケア、不妊治療などの施策を KPI として明記することにより、行政の施策のあり方を示すことができるのではないか。

担当部長：出生数を上げるためには、結婚から妊娠・出産まで総合的にやっていくこと、社会全体で子育てしやすい環境づくりをすることが大切である。今後 KPI への取り組みも含め検討していきたい。

座長：結婚・妊娠・出産について数値を設定し見える化することは必要であると考え。市としても検討していくため、またその際にはご意見もいただきたい。

委員：高校生みらい会議のような、10代、20代の子たちが意見を発信できる場が必要だと考える。旧市民センターの跡地利用では若い世代にも意見を求める働きかけがあったと思うが、10年、20年先の綾部を見据え、今後もそのような機会をたくさん設けてほしい。

座長：将来を担う子どもたちの意見を取り入れることは大切である。そういう意識をもって今後も考えていきたい。

担当部長：第6次綾部市総合計画作成時には初めて中学生に意識調査のような意見を聞く機会を設けた。昨年は市議会において高校生議員という取り組みも行った。今後も子どもたちの意見も聞く機会を設け、市政に活かしていきたい。

5 地域経済循環についての講演会

演題『綾部市の地域経済循環分析』

株式会社日本経済研究所地域本部 副本部長 鶴殿 裕 様

6 閉会